

ピリピ人の手紙の大きな流れ

1:27 キリストの福音にふさわしく生活しなさい⇒クリスチャンとしてふさわしい生活とは？

① 2:2 一つの心 ② 2:3-4 自分を捨て、へりくだり、他を尊敬し、他を想う。

↓

イエスがまさにそうだった (2:5-11) : それゆえキリストは「主」との名を授かる。

↓

キリストの福音にふさわしい生活の例：2人の若者が登場
テモテ・エパフロデト

○テモテ⇒いのちのことばをしっかり握って、彼らの間で世の光として輝く(ピリピ 2:16)

v.19 私(パウロ)も・・・励ましを受けたい。

スーパーマンでないパウロ cf.2 コリント 11:28-29 / 1 テサロニケ 3:5

v.21 誰もみな自分自身のことを求めるだけで・・・cf ピリピ 1:15/17

v.22 テモテの立派な働きぶりはあなた方(ピリピの教会)も知っている。

⇒使徒 16:2→使徒 16:11-40(2回目の旅行)

v.22 子が父に・・・cf:1 テモテ 1:18/2 テモテ 2:1 「私の子テモテよ。/わが子よ。」

考えてみたい点：パウロとテモテの関係はどのようなものだったか？

v.23 私のことがどうなるかわかり次第・・・=ローマでの判決

v.24 私自身も・・・行けること・・・主にあって確信 ⇒ 判決は無罪で解放される確信

○エパフロデト

- ・私の兄弟・同労者・戦友・使者・パウロを支えてくれた人。
- ・ピリピ 4:18/ ローマにいるパウロにピリピの教会からお金を届けた人
- ・どうやら、牧師、伝道者、聖職者ではなくピリピの若い一般信徒。

v.25 戦友：戦場について⇒cf.エペソ 6:12

「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」

v.27・・・悲しみに悲しみが重なる。

パウロの悲しみ：ローマでの孤独と焦燥感 / 自己中心的な目的や反パウロはとしてイエスが語られる。(ピリ 1:15/17)

v.28.29 キリストの仕事のために、死にそうになるエパフロデト⇒御心がなされるために「死」に従うキリスト。

v.28「彼のような人」⇒ キリストのように自分を捨てて仕える人。

考えてみたい点 v21etc..

① 自分自身のことを求めるとは？ ⇒ 「悪いイメージのもの」「良いイメージのもの」

一般的な例：

クリスチャン内の例：

② キリストを求めるとは？

タイスケがであったキーワード：

① I gonna treat everybody right

② How can I be Happy?でなくて How can I make you Happy?